

障がいのある人の居場所をつくる

「音楽の演奏による社会参加
は福祉の普及につながる」

社会福祉法人JOY明日への息吹

障害福祉サービス就労継続支援B型事業所JOY倶楽部

施設長 緒方克也

JOY倶楽部設立の動機

- 1984年のころ、当時の養護学校を卒業しても就労の場がない。何ができるかわからない、何をすればいいのかわからない。つまり、居場所が見つからない。同時に社会への出番もない。
- 保護者が自ら認可外作業所を立ち上げる時代だった。
- 既存の授産施設や更生施設での作業は単純な簡易作業で、やりがいや意欲が増す作業とは思われなかった。
- 作られた製品には障害者の主張や表現はなく、そして、社会参加という出番には至らなかった。
- 「居場所はないか、出番はいつだ」が保護者の思いだった。

海外の障害者たち

- そのころ海外で出会った障害者たちは、社会の中で生きていた。オランダ、フランス、デンマーク、カナダ、アメリカ、南半球でもオーストラリア、ウルグアイなど。
- 彼らは街中を遠慮なく歩き、想いをそれぞれの方法で主張していた。例えば、音楽、アート、工芸など。
- 大切なことは、社会が彼らを受け容れていて無視していないという事実だった。
- ノーマライゼーションの後、北米のチャンスの平等、欧州の結果の平等が障害者福祉の理念であり、一人の人間としての権利が尊重されていた。少なくともいわゆる北の先進国では。

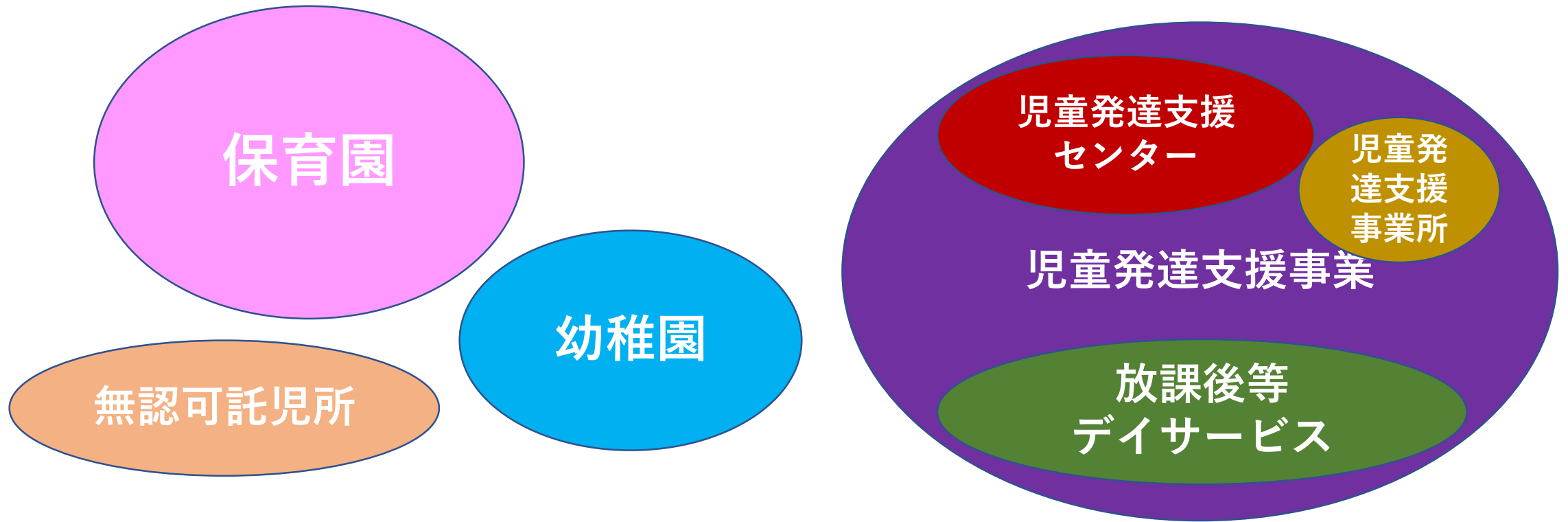
さて、1960年代の日本では…

- 障害は恥で自己責任という考えが一般的であった。
- 日本人の文化は「恥・謙虚・潔さ」に裏打ちされていた。
- 障害者は人目につかない場所で、施しに文句を言わず、潔くつつましく生きなければならない、という暗黙の圧力に支配されていた。
- 施設は街中からもバス停からも遠い。しかし、自然豊かなところが選ばれた。
- そして、いわゆる座敷牢もまだ多く存在していた。
- 障害者の人権や権利擁護とは程遠い時代のこと。

それから60年経って…



発達期の障害児の居場所がつくられた

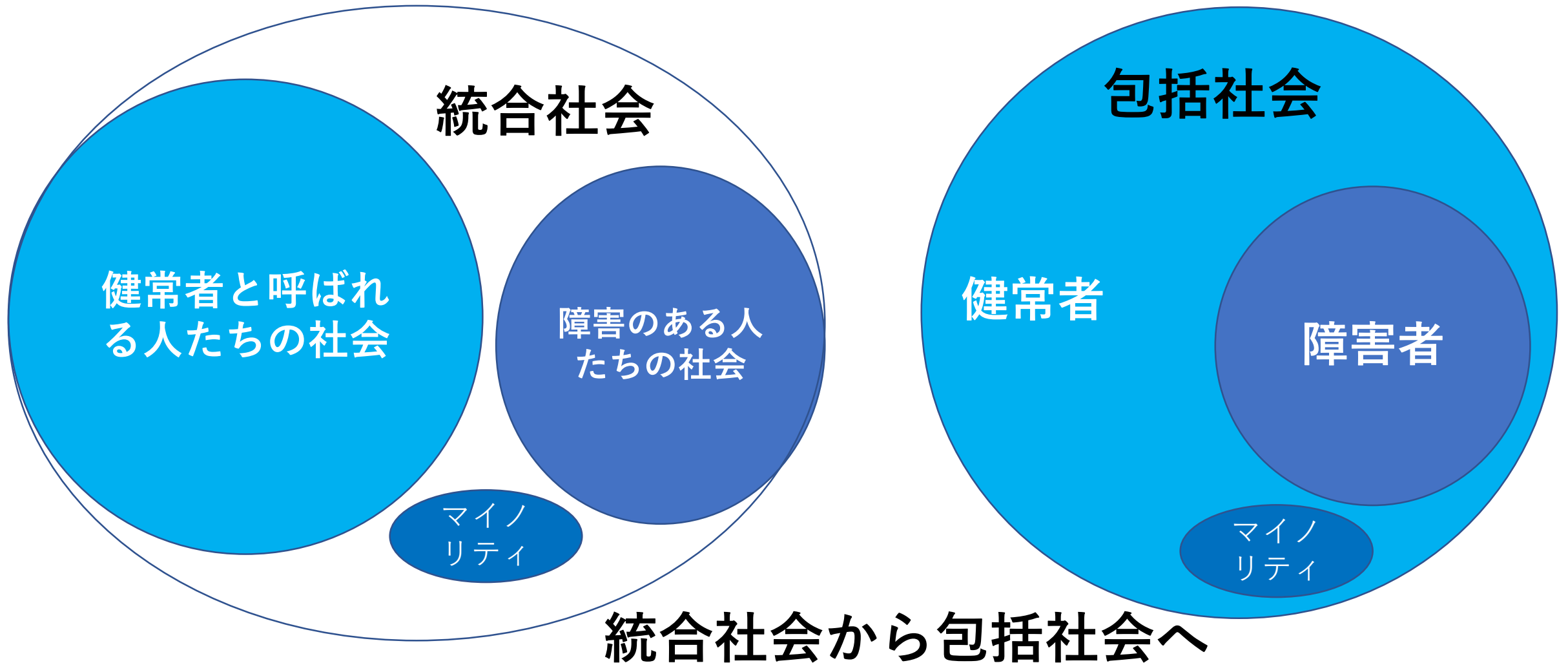


「療育」から「発達支援」へ。求められる専門性

社会参加という掛け声

- 国連の国際障害者年(1981年)のスローガンとして障害者の社会参加が言われた
- 社会参加とは社会からの隔離であった障害者の居場所を開放し、共生社会への始まりであった。
- 同時に、障害者を社会の中で意味のある存在として位置づけようという考えであった。
- 社会参加は障害の社会受容でもある。
- 教育の世界でもintegrationからInclusiveの考えの始まりが唱えられた。
- しかし、掛け声ばかりで現実は…。総論賛成各論反対。
- 自宅の隣に施設は遠慮してほしいという。

Integration/Inclusionの社会の在り方



1990年当時、障害者の社会の中の居場所 は限られていた

- 当時の養護学校卒業後の就労先がない。
- 成人後の生活の情報がない。
- 通所、入所の授産施設と更生施設が福祉的就労先
- 簡易作業中心で、割り箸の袋詰め、紙の箱折、空き缶潰し、自転車の再生、農作業など。
- 障害者に与えられているのはこのような仕事だけだろうか。障害者が一生懸命に折った箱が次々に使い捨てられていく。
- 箱折や空き缶潰しのために与えられた命だろうか。
- 事業所、作業所の絶対的不足もあった。

欧米の障害者たちは…

障害者医療の国際会議で海外の障害者との出会いがあった。

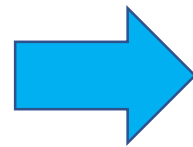
アメリカ・カナダ
南米

北ヨーロッパ

台湾・香港

社会に参加して生きている障害者を感じた。
そこには個性が生かされていた。

日本の障害者たちは…



社会の隅で生きていて、
没個性であった

「障害」とは何だろう・・・

- WHOは「機能障害」「能力障害」「社会的不利」というが、これらの基準は「障害」にあった。
- 日本では、障害と障壁のために「継続的に日常生活、社会生活に相当な制限を受ける者」というが、制限を与えているのは社会ではないだろうか。
- WHOは「障害」という用語を使わなくなった。新しい考え方(ICF)の始まり

その昔、決定的な出会いがあった

JOSTY BAND 1982

(Netherlands)

知的障害者の音楽バンド。オランダ国民から広く支持されており、技術的、音楽性も豊かであった。

PHILADELPHIA 1980

指先の画家。自分の体で動くのは左手の指3本のみ。その指で描く無限の世界は、市のベストデザイン賞を受賞し、作品集も出版された。何よりもお洒落なファッションとメイクの女性であった。

重症障害児施設北海道療育園

1986

16歳の女性、重度知的障害者ふしぎな雪だるまの絵に旭川市は特別賞を贈った。一冊のスケッチブックに描かれた幻想的な異次元の世界。

一線譜の子どもたち (長崎みのり園)

1990

入所施設の子供たちの演奏は、彼らの可能性を見せてくれて、広く全国に紹介された。ただ、放課後の余暇活動での取り組みだった。



オランダ, アムステルダム郊外の施設の音楽活動 JOSTY BAND. 演奏技術の確かさよりも, この楽団が市民権を持っていて, 市民にとって誇りであり愛されていることに感動した.

社会に顔を見せたいが…

- 日本の福祉サービスは社会から隔離されている
- 授産製品はだれが作ったのかわからない
- 授産製品はデザインが野暮ったい
- 授産製品は完成度が低い

地域の中で
支援されな
がら

社会に顔を
見せた活動

専門家の
指導で特
性を生か
す

専門家と
相談して
完成度を
高める

居場所を獲得するためには…

J O Y 倶楽部の基本姿勢

- 障害者だから質が悪くても許されるという考えはしない。
- 社会に甘えるわけにはいかない。同じ権利を主張するには社会のルールに従うこと。
- 音楽や絵は商品。良質の商品を提供してこそ価値の高い仕事となる。



厳しすぎるとの保護者の意見が出た。

社会に居場所を得るために必要なこと

社会のルールを守る

存在が必要とされること

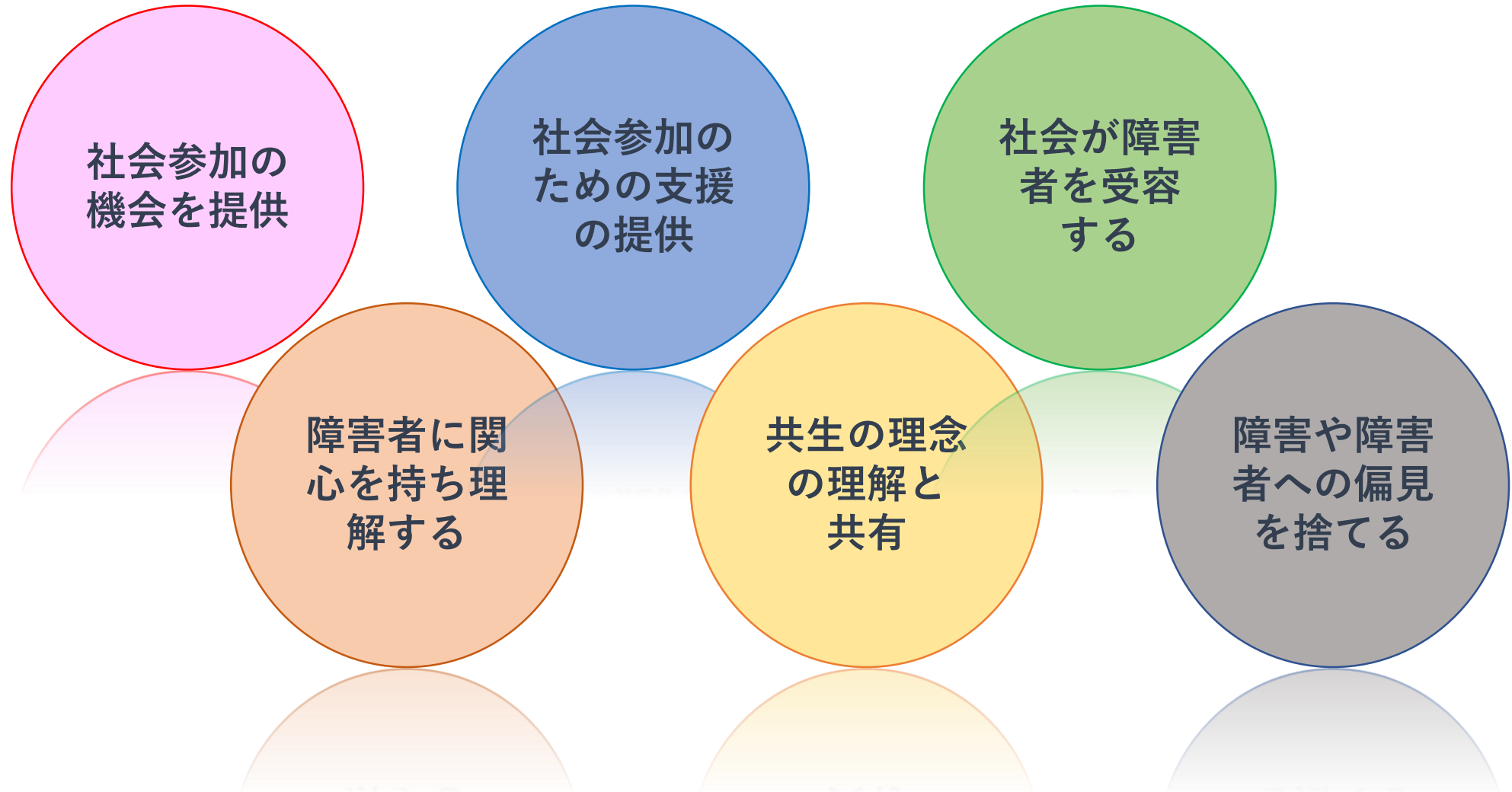
市民権を得る

社会に対する貢献

障害を権利と置き換えない

社会人としての責任を持つ

社会が居場所を提供するために



活動を始めたJOY倶楽部



年間に約50回の公演を全国で行い、1200回の講演で通算28万人の観客を動員している。

JOY倶楽部の基本姿勢



彼らは操り人形だ。させられているにすぎない。厳しい訓練はかわいそうで、あそこまでしなくてもいいのに。



あれは指導者や運営者の自己満足にすぎない。自分たちの満足のために障害者が利用されている。



上手だ、健常者と変わらないといわれたいのだろう。結局、健常者のまねごとで健常への憧れにすぎない。

この3つの誤解を与えないようにするための努力が必要



2019.8.24 広島講演

JOY倶楽部の居場所と出番

居場所は市民権。福岡市民が誇りに思える社会資源となったこと。
出番は音楽やアートを通じた社会貢献。

たくさんの障害者に
勇気を与える機会を作る

利用者の生活を
生涯保障する

社会に障害者の命の
尊厳を伝える

利用者の自立を支援する



居場所

と



出番

居場所の確立

- 居場所とは社会の中の居場所のことであり、サービス提供の場所ではない。
- 社会の中の居場所とは、社会参加の形である。
- 居場所は社会的モデルの考えで社会が用意するもの。
- 居場所は障害者が社会の中で自己表現を行う場。
- 居場所の確立は障害者が市民権を得るということ。
- 居場所は地域の中にあり、地域に支えられていることが必要。

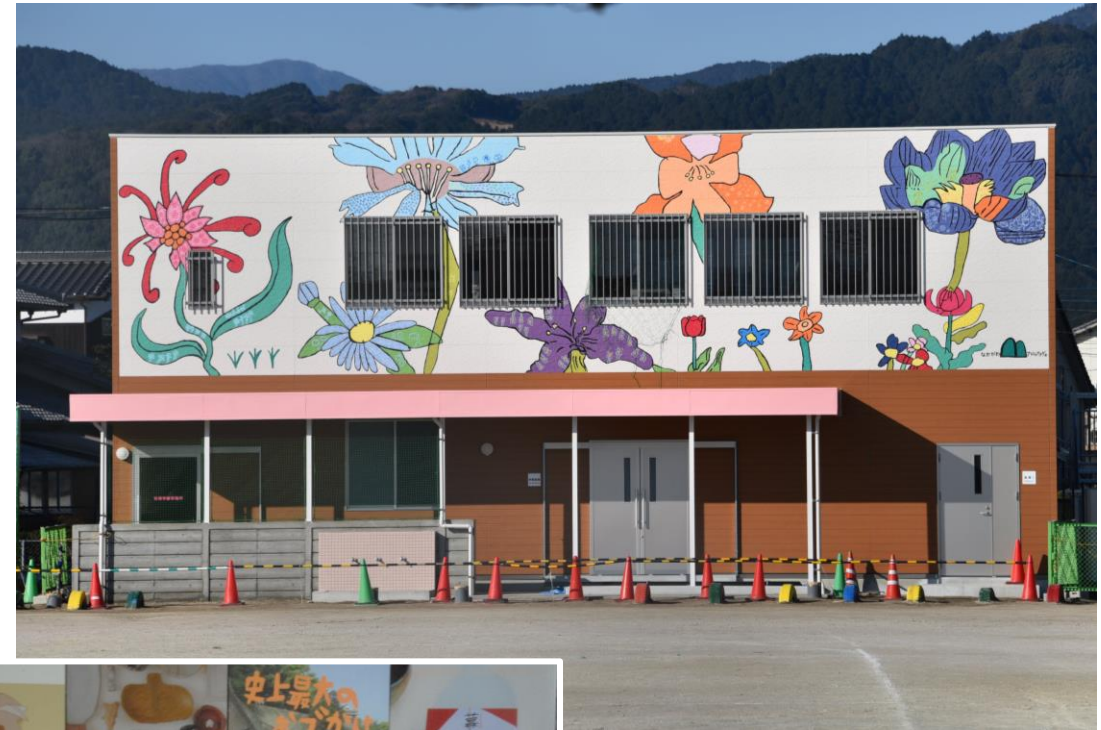
障害者にとっての「出番」は
社会に向けた「やること」を持つこと

- 出番とは何ができるかである
- 出番は社会参加の機会という意味
- ICFの考えの中の「参加」に当たる
- 居場所だけでは参加にはならない
- 社会に対して自己の存在を主張する機会
- 居場所があるから出番がある

JOY倶楽部の出番



ビルの谷間のコンサート(福岡市中央区)。
通りすがりの人々が足を止めて聴き入る。
出番が与えられた障害者たちの社会参加で
あり、障害者福祉の普及を担っている。



地域の小学校の学
童保育校舎の壁画



作品展のDMはがき

「出番」が社会にもたらしたものの

- 障害者に対する評価が変わった
- 障害者は何もしない、できないという誤解からの脱却
- 居場所も出番もなかった時代の障害者福祉の変化
- 「福祉をアート化する」を合言葉にした意味は、「主張できる生き方を選ぼう」にあった
- 障害者の新しい生き方は新しい居場所づくりとなった
- 新たな居場所は障害者権利擁護の上にある

居場所としてのJOY倶楽部がもたらしたものの

- 障害者の社会参加の多様性を紹介した。
- 福祉の形にエンターテイナーを提示した。
- 多くの障害者に希望と勇気を与えることができた。
- 発達障害者にとって苦手な、「人に合わせる」を実現した。
- ステージの上JOY倶楽部を支えているのは、音響、照明、舞台のプロの社会人で、まさに共生社会の実現である。

重度障害者の居場所を考える

- 重症心身障害者は24時間ベッドの中の生活である。
- ベッドの中が彼ら/彼女らの居場所だろうか。
- そのベッドは社会の中にあるのか、隔離された中か。
- 社会との接点や社会がその存在を知ることからベッドは居場所に代わる可能性を持っている。
- 地域社会の中に重症障害者の居場所をつくることが可能である。
- 地域交流でその存在と命の尊厳を伝えることが居場所づくりとなり、存在そのものが出番といえる。

まとめ

- 障害者の居場所はインクルーシブ・包括社会の考えの中にある。
- 居場所は社会的モデルの考えで社会が用意する。
- 居場所づくりのキーワードは社会の障害受容にある。
- 居場所と同時に出番があって居場所は生きる。
- 出番とは社会参加の具体的な方法である。
- JOY倶楽部は社会参加の結果、市民権という居場所を得た。
- JOY倶楽部は音楽とアートを出番として、障害者の意義ある存在を社会に伝えた。
- 重度障害者の居場所は市中にあって意味がある。

ご清聴ありがとうございました。

社会福祉法人JOY明日への息吹
障害福祉サービス事業所 JOY倶楽部
施設長 緒方克也